

令和7年度第1回 社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和7年7月10日（月）13：30～

場 所：生涯学習総合センター研修室5・6

出席者：委員9名、事務局5名

1 委嘱状交付

2 会議

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 議事

①会津若松市の魅力を生かす社会教育の推進について

前回までの会議で議論した「会津若松の魅力」を生かした社会教育の方向性について、「魅力の認識」、「魅力の活用」、「魅力の共有」、「魅力の発信」、「魅力の継承」の5つの方向性に分類し、それぞれの項目ごとに、今後の具体的な方策等について議論した。

【委員からの主な意見】

◆魅力の認識について

- ・社会教育について、会津若松市の教育委員会が改めて報告書やパンフレットなどを作成し、全体像を作っていくとよい。例えば中学生や高校生にパンフレットを作る時に参画してもらうこともよい。いろいろな人々がもう1回、会津若松市がどういうふうな取り組みをしていたのかというのを、オープンな場で議論して改めて再整理をしていくと、ここでの認識がさらに深まるのではないか。
- ・会津に住んでいる方や、会津で育った方は会津の魅力をもう一度認識するのが難しい部分もある。もう一度自分たちで噛みしめるような、何かツールが必要だと思う。そのツールは地元の人も自分たちの魅力を認識したり、会津に来た人があまり能動的に努力しなくても、味わえるようなものが良い。
- ・地域学校協働活動は、公民館等を利用し、地域住民が指導者になって、子どもたちへ多様な体験活動ができる機会を提供しているが、ここに重点を置けば、子どもたちがいろいろな体験をできると思う。地域住民が指導者になることが、会津若松市の社会教育を広げることになる。

◆魅力の活用について

- ・ 中高生を対象を絞り、どういうふうに大人たちが自分たちの魅力を伝えていけばよいかというような方向性で社会教育を推進する考え方もある。
- ・ 伝統文化については、どうしても大人向けが多いので、小学生や中学生や高校生を対象にする機会を増やすことができればよい。
- ・ 郷土料理や食の文化に関しては、各地区ごとに集まっている食生活改善協議会などの団体を使うのもよい。
- ・ 以前、PTA研修会などで、郷土料理や食育の話を聞いたが、家庭に広まってないので、良いものは伝えていくべきである。
- ・ 会津若松には、幕末検定や歴史検定しかないので、自然の検定も全て合わせて総合的な検定を作るのはどうか。

◆魅力の共有について

- ・ 中高生が集まって、街の魅力などを発信するような場所がハブになってあるとよい。そのためにも、常時人がいるという場所が必要である。社会教育士のような資格を持ったコーディネータやユースワーカーのような人材を配置できると良い。
- ・ 高校の探求の授業では、学校側のニーズに応じて、専門的な方を登録してもらって実施している状況にあるので、これを社会教育的に中高生に向けてやるという場合には、そのマッチングをどうしていくかが課題となる。学校側の意思や、教育課程の条件もあるので、それが整わないとなかなか難しいと思う。ただし、社会教育として、広く門戸を広げて、ぜひ中高生に参加してもらいたいというやり方もある。中高生を対象とする時には、その親世代も入っていただけるとよい。

◆魅力の発信について

- ・ SNSに重点を置きつつ、発信していくことが必要と思うが、ただ発信するだけではものすごい量の情報が出ているので、辿り着きやすさも考慮した中で、情報の発信の仕方を考えたほうがよい。
- ・ 大人だけで発信するのではなく、中学生や高校生にSNSで発信するものについて協力をしてもらい、どういうふうに発信したら、中学生や高校生に届くのかというように、視点を変えて発信することが大切である。
- ・ SNSは埋もれるという問題があるので、パンフレットや報告書など、中高生が自分たちで作ったものを、本人たちが手渡しでどんどん渡していくようなやり方もよいのではないかと。友達が作ったり、知り合いが作ったら、愛着も湧く。
- ・ 中高生が集まれる場所を駅の中に作るなど、彼ら自身が情報を発信できる場所があると面白い。

◆魅力の継承について

- ・子ども食堂のようなところで、郷土食を広めていくのもよいのではないか。
- ・本当に大変な家庭に関わることが多く、家庭ができないから、地域の人たちが動いて子どもたちに伝えるという術を考えるのがこういう場だと思う。大変な家庭にも気軽に学んでいただけるような講座を、今は少ないかも知れないが、継続して提供することが大事だと思う。そして、みんながこんなふうに議論したり、子どもたちのことを考えて動いているということは、どこかで発信していかなければならない。こういうプロセスも含めて発信できる場があればよい。
- ・会津のいろんな魅力、文化や食育などが途絶えようとしているが、それをどうやってつなげていくかという問題がある。会津ならではの情緒や文化はすごく魅力的なので、それを知っている人たちから知らずにまだいる人たちへ、また、家庭の中でも伝えていけるように、社会教育として喜んで参加してもらえそうな機会や情報発信ができないかと思う。
- ・1年2年ではなく、長期的に子どもたちに会津の魅力について興味を持ってもらうことを続けていくことができれば、その子たちが親の世代になった時には少しは変わると思う。
- ・大人の役割は、いかに子どもを良い未来に誘うのかということだし、未来を変えることができるのは、子どもだけだと思う。そう考えた時に、そういう人たちを支える仕事を社会教育でもいかに保障していくかということは重要になってくると思う。
- ・元気なシニアの力を借りて、自分たちが楽しんで活動することに加え、社会教育にも繋がるような活動もしていってもらう動きになればよい。
- ・あまり人が行ったことがないような場所や、食べたことのないようなもの、ここでしか手に入らないものというような、マニアック会津若松みたいなものを企画して発信してみたら面白い。
- ・会津大学で学ぶ学生は、会津以外から来ている人がほとんどで、会津に何年か住んで、会津の良さが分かれば、どこかに行っても、会津はこういうところだという話しをしてくれると、全国あるいは世界規模に広がっていく。

②その他

◆令和7年度福島県社会教育研究集会について

3 閉会